

公開講義「ソロヴィョフの神人論に関する研究」

Учение о Богочеловечестве В.С. Соловьёва



ヴラジーミル・ソロヴィョフ（1853-1900）は、19世紀末ロシアの神秘主義的・象徴主義的な潮流を代表する思想家、哲学者です。現実から形而上に至るその壮大な思索体系は、いわゆる「銀の時代」の文学・芸術・思想に深甚な影響を及ぼし、その余波はさまざまなかたちで、一方ではソ連体制下、他方では亡命ロシア人社会の世界観にまで至っています。

この講義では、そのようなソロヴィョフの思想の最重要の核心の一つであり、ロシア正教の教義（ドグマ）にもつながっている「神人説」の成立事情と特徴を、ロシア思想の専門家であるマリノフ先生に縦横に論じていただきます。

晩年のヴラジーミル・ソロヴィョフ

【講師紹介】アレクセイ・ヴァレリエヴィチ・マリノフ（Алексей Валерьевич Малинов）先生

サンクトペテルブルク大学ロシア哲学・文化学科教授。専門は、ロシア哲学史(特にロシアにおける歴史哲学、スラブ派史、18世紀ロシア哲学)、地方分離主義イデオロギー・哲学、アルタイ学、民族智学。著書に『ゲゴロリイ・スコヴォロダの哲学的見解』(1998)、『パーヴェル・ガヴリロヴィチ・ヴィノグラドフ: 社会史的、方法論的な諸概念』(2005)、『19世紀後半～20世紀初期ロシアの歴史的・哲学的思想における理論・方法論的探究』(2008)ほか多数。



2018年7月4日(水) 18時15分開始

京都大学文学研究科(文学部校舎)

2階 第2演習室

聴講無料・予約不要

使用言語:ロシア語(通訳付き)